

の取り組みを推進します。

※自尊感情：自分自身を基本的に価値あるものとする感覚

アンビシャスな青少年 になるための7の提案

これまでの「12の提案」を、「より具体的、実践的な言葉」で「自主的・主体的に参加できる」ように直し、第2期では次の7項目としました。参加団体の皆さんには引き続きそれぞれの目標に沿った活動に取り組んでいただくとともに、さらに多くの団体やグループの参加を呼びかけます。

① 家庭でしっかりしつけをしよう

乳幼児期からの語りかけやスキンシップで基本的信頼関係を築くとともに、良い生活リズムが身につくよう根気強くしつけることが大切です。

例えば：早寝・早起き・朝ごはん、食事の時はノータレビを習慣にしよう

② 地域ぐるみで子どもを育てよう

子どもたちは友だちとの遊びや地域の行事などに参加



おにぎり作りに挑戦

することで多くのことを学び成長します。子どもたちがいろんな体験を経験できるように、地域全体で取り組みましょう。

例えば：子どもの居場所をつくり、思いっきり外で遊ばせよう

③ 学校でアンビシャス運動を進めよう

学校は豊かな人間性を磨き、将来の社会的自立に向けて準備する大切な場です。家庭や地域だけでなく、学校での取り組みも大切です。

例えば：コミュニケーション力を高める取り組みをしよう、文化や芸術に触れる機会を増やそう

④ 読書をしよう

読書は豊かな感性や想像力をはぐくみ、子どもたちの知識を深め、考える力を鍛えます。

例えば：読み聞かせで本の楽しさを伝えよう、学校で「朝の読書運動」などに取り組もう

⑤ 自らを鍛え、得意技を持とう

自然体験や社会体験、スポーツ、文化活動などで体力や精神力を鍛えることで、困難に立ち向かう勇氣を身につけ、本当の感動を味わうことができます。

例えば：長期のキャンプに参加して、自然のなかで共同生活をしよう

⑥ 世界の青少年と切磋琢磨しよう

子どもたちが将来の日本を背負って立ち、世界の中で生きていくためには、世界の子ともたちと交流し、挑戦する意欲を育てることが必要です。

例えば：世界の子ともたちと交流できる行事に積極的に参加させよう



アンビシャスの翼・バックパックハイク

⑦ 大学も企業もアンビシャス運動を応援しよう

大学には学生が学んだことを地域で生かすことができるよう支援することが期待されます。また、企業には働くことの厳しさと達成感などを教えることが求められます。

例えば：大学は学生のボランティア活動を積極的に推進しよう、企業は職場見学、出前講座に協力しよう

地域に根ざした県民運動を目指して

青少年アンビシャス運動は、一人でも多くの子どもたちが「豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持つ（アンビシャスな）たくましい青少年」となるよう、すべての県民の皆さんが家庭や地域、学校、職場などそれぞれの立場でこの運動に取り組みんでいただくことを目指しています。

